

(第3種郵便物認可)

伊方3号 燃料落下信号

定検中トラブル続発

四電に厳しい視線

定期検査中の四国電力伊方原発3号機(伊方町)で20日、点検のため動かしていた燃料集合体の落下を示す信号が発信された。四電は12日、3号機原子炉容器内の核燃料を取り出す準備作業中に、核分裂反応を抑える制御棒1体を誤って引き抜くという「前例のない」トラブルを起こしたばかり。相次ぐトラブルに厳しい視線が注がれている。

(1面参照)

制御棒の誤った引き抜きに続く今回の信号発信を、即時公表のA区分異常と判断した県。県庁での会見で、四電に対し口頭で厳重注意したことを明らかにした。「放射性物質が出なかったとはいえ1月に入りトラブルが続いており、事態を重

く見ている。大変遺憾だ(大橋良照・原子力安全対策推進監)。操作が適切だったかどうかも含め原因究明と再発防止を求め「今後の定期検査を安全に行うしてほしい」とくぎを刺した。四電の説明では、燃料集合体挿入時は落下しており

ず、環境への放射能の影響はなかった。ただ「原因がはっきりしていない」との理由から、会見に出席した四電担当者から明確な謝罪の言葉は聞かれず、会見後の愛媛新聞の取材に「心配をお掛けしていることを申し訳なく思つ」と述べ

た。四電は原因究明後、対策を策定した上で作業を再開する方針で「今後はより一



伊方原発3号機で発生した燃料集合体落下信号発信トラブルについて説明した県と四電の会見—20日夜、県庁

甲状腺検査の受診率が低下

福島県民健康調査

東京電力福島第1原発事故の健康影響を調べる福島県の「県民健康調査」検討委員会の評価部会が20日、福島市で開かれ、県内全ての子どもを対象とする甲状腺検査の受診率が低下していると報告された。事故が発生した2011年に始まった1巡目の先行検査では80%を超えていたが、16年から実施した3巡目では64・7%まで減少した。

部会長の鈴木元・国際医療福祉大クリニック院長は「(検査で得た)データの信頼性が低下する」と懸念を示した。

県の検査を受けずに自ら医療機関で受診し、がんと判明したケースを把握する

伊方原発運転差し止め

原子力コンサルティング

佐藤 暁

原子力発電所に対する運転差し止めを巡る、昨今の裁判所による決定・判決に中立的

ず



佐藤 暁 1957年山形県生まれ。山形大卒。2002年まで米ゼネラル・エレクトロニクス社原子力事業

患者の申し出で透析中止許容も

学会が提言案

東京都の公立福生病院で2018年、人工透析をや

月16日に東京都文京区の東京医科歯科大で公聴会を開く。同学会は3月末までに取りまとめたいとしている。

提言案は「最終的な意思決定は患者の基本的権利」